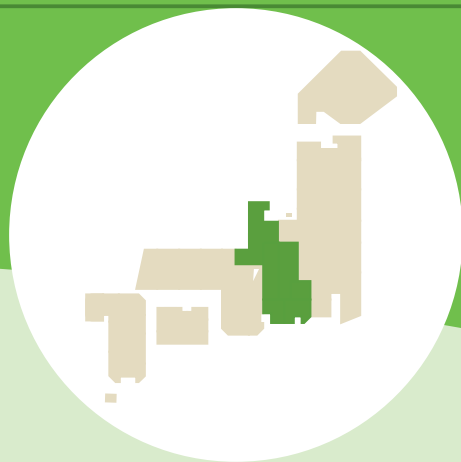


東海・北陸



p.32 岐阜県

竹内 正康さん
ソフトバレーボール



p.33 静岡県

大石 ますみさん
マラソン



p.34 愛知県

岸 勲さん
ソフトテニス



p.35 愛知県

堀 淳子さん
インディアカ



p.36 三重県

石原 保行さん
パドルテニス



p.37 三重県

下村 真也さん
ソフトボール





ソフトバレーボール

MC可茂
(監督)

たけうち まさ やす
竹内 正康さん

75歳

●参加歴：8回目

今後は新たな種目にもチャレンジしたい

ぎふ大会は2020年の延期、2021年の中止を経て、2025年に待望の開催となりました。

総合開会式は、時折霧雨が降るなか盛大に開催されました。式典後のインターバルでは、夏の甲子園で強豪校を倒してベスト4に進出し、県民をはじめ全国に熱い感動を与えてくれた岐阜商業高等学校の応援部、吹奏楽部の約100名もの学生らが、甲子園での熱戦や激戦を熱く盛り上げた応援シーンを再現し、大会に参加する選手に向けてエールを送ってくれました。若さあふれるエネルギーを身体全体で感じる事ができ、翌日からの戦いに向けて大きな力になりました。

大会期間中はあいにくの空模様でしたが、昼間は屋外の競技も支障なく行われ、無事に来年度開催の埼玉県へ大会を引き継ぐことができました。

私はソフトバレーボールのMC可茂の監督として参加しました。私とソフトバレーボールとの出会いは42歳の時。当時バレーボール協会の役員をしていた同級生から、「チームをつくるから参加しないか」と誘われたことがきっかけでした。

以来33年間、連盟に登録し、県内外の大会へ参加するなど活動を続けています。

私とねんりんピックの出会いは、50代後半の頃、他チームの先輩から、ねんりんピックで北海道へ行って楽しかったこと、メダルまであと一歩で悔しかったことなどの話を伺ったことがきっかけです。自分も60歳になったらねんりんピックに参加したいと思い、同年代の仲間に向けて声をかけてチームづくりを始めました。そして、2010年のいしかわ大会に初参加。なんと金メダルを取ることができました。これが自信につながり、メンバー全員が次も参加したいと想いを一つにしました。そして高知、山口、秋田、和歌山、神奈川・横浜・川崎・相模原、鳥取、岐阜と、これまで8回の参加につながりました。この歳になっても初めて訪れる場所がほとんどで、どの大会でも、食事、観光、人との交流など印象に残る楽しい思い出が今も鮮明に思い出されます。すっかりねんりんピックの魅力にはまってしまったようです。

これまで、金メダル5個、銀メダル2個、銅メダル1個を獲得してきましたが、年を重ねるにつれジャンプ力や体力面の限界を感じるようになってきました。今、新たな種目にもチャレンジしようと計画中です。これからも健康長寿、生涯現役を目指し、まだまだねんりんピックへの参加意欲を持ち続け頑張っていきます。



生涯現役を目指し、他の種目にも挑戦したい。



金メダルを胸に笑顔で記念撮影。(左から3番目)



東海・北陸
静岡県

2025 GIFU
NENRINPIC

マラソン

3km
(選手)

おおいし
大石 ますみさん
63歳
●参加歴：1回目

笑顔と声援に支えられ初参加で優勝を手

「ねんりんピックは盛大な大会だから、参加してみるといいよ」とマラソン仲間から紹介され、挑戦しようと思ったのが出場のきっかけです。

静岡県のねんりんピック予選会「すこやかマラソン」は、ねんりんピック前年の12月に行われます。さっそく予選会に参加し、2023年、2024年と2年連続で優勝しましたが、前回のとっとり大会は家庭の都合があり出場辞退。今回のぎふ大会で念願のねんりんピック出場にたどり着きました。

ねんりんピック初日の総合開会式は、聞いていた通りの盛大なものでした。岐阜城が見える会場で、地元の子どものたけのこ作りの応援横断幕、岐阜商業高等学校の生徒や甲冑をつけた応援団に勇気をもらい、アットホームな雰囲気とともに全国大会の良さを感じました。アトラクションの郡上踊りもボランティアの方と一緒に踊ることができ、印象に残っています。

静岡県のマラソンチームの選手の間も優しいばかりで、一緒に健康フェアなどのプ

スを回ったり、写真を撮ったり、食事をしたりと、同じ時間を過ごし、たくさんの思い出ができました。付き添いで同行していた選手の家族の方や他県の選手とも、競技の話はもちろん日頃の地域活動などの話にも花が咲き、多くの方と交流ができました。

レースは長良川の河川敷で、見通しの良いコースでしたので、同じ3kmで出場した静岡県の男性選手のオレンジ色のシューズを目標に走ることができました。折り返してからは、先にスタートした5kmの選手や黄色のゴールゲートを目指しました。周りの声援が聞こえ、集中してトップで走り切ることができました。チームの選手、浜松市の選手の皆さんにも優勝を喜んでいただき、感激もひとしおでした。

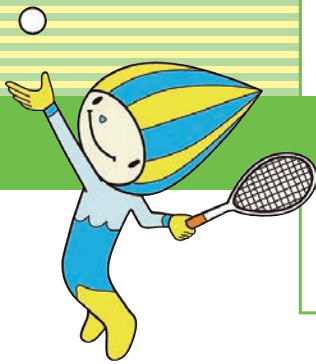
地元のボランティアの学生さんの笑顔のあたたかさや声援をはじめ、地元の特産品（トマト、お米、きゅうり、オレンジジュース）のおもてなしもとても美味しく、どれも印象的でした。

普段一緒に練習をしている静岡県の地元掛川市や御前崎市の方々の顔を思い浮かべながら、レース中も楽しく気持ちよく走ることができました。これも仲間や運営関係者の皆さんのおかげと感謝しています。

一緒に参加した選手の皆さんと、これからもマラソンでお会いできるよう、今後も練習に一生懸命励みたいのです。今回、ねんりんピックに初めて参加し、規模の大きさや開催地のおもてなしに感激しましたので、また参加したい気持ちでいっぱいです。



支え合った静岡県チームの仲間と一緒に。(左から3番目)



ソフトテニス

スマイル愛知
(監督兼選手)

きし いさお
岸 勲さん

64歳

● 参加歴：2回目

皆で勝ち取った想定外の全国制覇

自分がソフトテニスを始めたのは、中学時代のクラブ活動でした。中学では後衛でしたが、高校からは前衛となり、インターハイを目指して汗を流しましたが、結果はあと一歩で出場できず、悔しい思い出が残っています。

社会人になってからも地域の大会に参加し、また、母校のコーチをするなど、ソフトテニスとは生涯スポーツとして関わってきました。

シニアになってからは先輩のお誘いもあって、レベルの高いクラブに参加させていただくようになり、60歳以上で参加可能なねりんピックを知りました。

ねりんピックでのソフトテニスは、混合ダブルス、男子ダブルス、女子ダブルスの合計3ペア6名でのチーム団体戦による競技です。初日は4チームでのリーグ戦、2日目は順位トーナメントを行います。

自分は、監督兼選手として2回目の出場にな

ります。前は3年前の神奈川・横浜・川崎・相模原大会に出場し、予選リーグは1位で通過しましたが、翌日の1位トーナメントで岐阜県に敗れ、ベスト8の成績でした。

今回、我々スマイル愛知は予選リーグを1位で通過し、翌日の1位トーナメントにおいて、熱戦を制して優勝することができました。特に決勝は開催地である岐阜県との対戦で、8月の練習試合では負けていた強敵です。完全アウェイの中でしたが、逆転勝利した準決勝からの勢いとチームワークで幸運にも勝つことができ、想定外の優勝、全国制覇という最高の結果となりました。ともに戦った良きメンバーに感謝です！

最後にスポーツ・文化の交流を目的とするねりんピックがますます繁栄し、メジャーの大会になることを祈念するとともに、今大会の準備から実施・運営に関わっていただいた多数の関係者の皆様に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



準決勝前に一致団結のスマイル愛知。(左から2番目)



表彰式後のビッグスマイル。(左から3番目)



インディアカ

このはずく
(選手)

ほり あつこ
堀 淳子 さん
62 歳
● 参加歴：2 回目

ナイスプレイで広がる交流とチームの絆

私は、2023年のえひめ大会に初めて参加し、今回は2回目の参加でした。メンバーは、愛知県インディアカ協会の中でそれぞれクラブに所属している5名です。「一緒に参加しませんか」との声かけに、即座に快く了解し、「出るからには優勝をするぞ!」と皆、強い意気込みで参加しました。

総合開会式が行われた長良川競技場では、全国から参加した各競技の旗手を先頭に選手団が行進し、その様子が大画面のモニターに映し出されました。それは、今から戦が始まるような圧倒感と緊張があって、とても感動しました。

交流アトラクションの郡上踊りは、その昔、浴衣を着て踊った町内の盆踊りが懐かしく思い出され、思わずメンバーとフィールドへ駆け降り、輪に入って踊りました。岐阜らしいアトラクションで印象に残りました。

インディアカ交流大会では、このメンバーで優勝できたことが何よりもうれしかったのはもちろんですが、それ以上に心に残ったのは、試合の中で、相手チームのナイスレシーブやナイスブロックに対

しても、「ナイス!」と声をかけ合い、敵味方を超えて互いを尊重し合い、温かい雰囲気の中で交流の試合ができたことです。

私のチームには、今回、高齢者賞をいただいたメンバーがいます。インディアカが大好きで、いつもはつらつとして、周りの人たちを気遣うことができる方で、私たちのお手本になっています。

インディアカは、年齢に関係なく、人と人とのつながりを深める力を持っています。自分もインディアカが上手になりたいという気持ちに加え、周りの人と一緒に楽しむ姿勢を大切にしていって、日々の練習や、交流会へも積極的に参加して、楽しく長く続けていきたいと思っています。

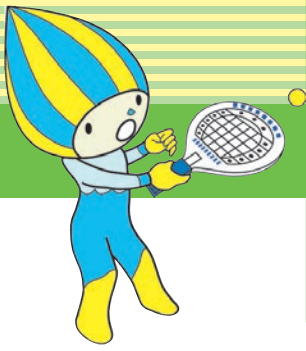
今回の経験も、自分を成長させてくれる大切な経験となりました。この経験をしっかりと力に変え、次回にはもっと成長した自分を発揮できるように努力をして、今回と同じメンバーで試合に挑戦したいと強く思います。



壮大なスケールで感動した開会式にて。(左)



「今日は頑張って優勝するぞ!」と意気込むこのはずくチーム。(右から2番目)



パドルテニス

チーム MIE
(監督兼選手)

いしはら やす ゆき
石原 保行さん

64 歳

● 参加歴：1 回目

ありがとう岐阜！ 心に響いたおもてなし

決勝を前に、「絶対にこちらからミスをしたくない」「絶対に気を緩めない」と心に強く決めて臨んだ。「強く打てていない」「相手コートにボールを置きにいつている」と思いながらも、ポイントがこちらに入り続けてずっとリードしていたので、攻める打ち方に変えなかった。最後に相手がボレーした球がサイドラインからわずかに出たとき時、私は「アウト」とはっきりと言い、「ついにやったぞ」と心の中で叫んだ。

優勝に酔いしれている時、「おめでとう」「三重を応援していた」と真っ先にコートに入り、握手したり抱擁したりして大喜びしてくれたのは、何度も対戦したことのある岐阜の選手だった。応援してくれていたことに感謝の気持ちでいっぱいになった。

振り返れば約1年前に、私は、ねんりんピックに出場できると分かり、当日が大変待ち遠しかった。その間、週2回の練習に加え、ほんの短時間ではあるが、腕立てや柔軟運動、ジョギング、ふくらはぎや握力を鍛えるトレーニング、階段を1段とぼしで上がるなど、毎日のように運動した。このようなことが、結果に反映できたのかもしれない。

総合開会式やパドルテニスの開始式では濃姫の出迎えや参加型の踊りなど、岐阜独自の視点で盛大にもてなしていただいたことも、心に残る素晴らしいものであった。

予選を全勝で終えた試合初日の夜には、岐阜選手7人から誘いを受けた親睦会に、チーム MIE 全員で参加した。普段の大会ではなかなか見られない一面に触れ、仲間意識が深まった。美味しい料理を囲みなが

ら心が触れ合うひとときとなった。

試合2日目の帰りは、多治見市モザイクタイルミュージアムを見学した。これまで、その隣にある笠原体育館には大会に出るため何度か訪れていたが、今回初めて入館できたのは、ねんりんピックに参加したからこそ実現できたことである。さまざまなタイル製品を鑑賞することができた。

ねんりんピックでパドルテニス競技が導入されたのは、今回が初めてである。パドルテニスにとって記念すべき第1回大会で結果が残せたのは、うれしい限りだ。特に、何年も前からさまざまなことに尽力していただいた岐阜県パドルテニス協会のおかげである。心から感謝している。来年以降のねんりんピックでも、パドルテニス競技を開催してほしいと願う。



岐阜ならではのおもてなしが印象的だった総合開会式。(後列右端)



ソフトボール

MJクラブ
(選手)しもむら しんや
下村 真也さん

60歳

●参加歴：1回目

楽しかったねんりんピックの思い出

ぎふ大会に参加させていただき、スタッフさんのおもてなしの心が、総合開会式からとても伝わる大会だと感じました。開会式での一番の思い出は、皆さんと一緒に岐阜伝統の踊りを踊ったことです。皆さんの仲間入りをさせてもらったような気持ちの良い空間でしたね。汗をかきながら一体感を覚え、岐阜県に来たと全身で感じた瞬間でした。伝統を体験できる開会式で良かったです。

「幸せなら手を叩こう」と皆で歌えたことも、とてもうれしく感じました。振り返れば、普段「幸せ」と口にすることは少なく、この時ばかりは声を出しながら参加しました。気分が良くなり、開会式会場の周囲に準備されていた体験コーナーでチームメイトと過ごしたり、地元食

材を食べたり、ついついお土産をたくさん購入して宅急便の手続きをしてみました。歴史上の武将になれるコーナーで、鎧や衣装を着せていただいたことも、思い出に残る瞬間でした。

いろいろな場所で、大会参加者のリラックスした表情や笑顔が目飛び込んできました。競技会場でもたくさんのブースで笑顔のおもてなしを受けました。とてもうれしかったです。大会スタッフさんの対応は心地よく、過ごしやすい安心感があり、岐阜県民の皆さんの優しい人柄が伝わってきました。雲ひとつもない青空のような印象を受けました。

また、宿泊先での食事も品数が多く、郷土料理の鮎も並んで満足でした。すみずみまで行き届いた大会でしたね。試合だけでなく、見て参加して食べることも思い出に残りました。

ホテルから会場までの送迎車は福井県大野市から来ていて、他県も協力体制になっていることが参加してわかりました。試合会場だけでなく、ホテルでの他県チームとの交流も生まれました。

出場に向けた練習の日々。上位進出を目指し、皆で「青春を取り戻すぞ」と声をかけ合いながら励みました。初めての大会参加となって説明会に参加し、しっかり話を聞いてチームメイトに情報発信しなければと、何度も資料を読み返した覚えがあります。私なりにまとめた資料を作成してチームメイトに配布し、ユニフォーム、健康チェック表、体調管理に気を使い、そして開会式当日があつという間にきました。自宅を5時に出発し集合場所に……振り返ればあの日の記憶がよみがえります。楽しかったです、ねんりんピック。



宿の部屋でチームメイトと。後ろには長良川が。(中央)